

来年5月 京でIPCC総会

事前イベント全11区で



地球温暖化の仕組みについて説明する安成所長
(京都市北区・総合地球環境学研究所)

市、温暖化講演会や演奏会

研究者が地球温暖化の現状や見通しを調査している。

総会は来年5月8～12日に国立京都国際会館(左京区)で開かれ、国ごとの温室効果ガス排出量をより正確に把握する方法を議論し、報告書をまとめる。

リレー事業は、交通や気候変動対策を含めた総合的な都市づくりに関するトークイベント(上京区)や、

環境問題をテーマにした漫画の展示会(中京区)、市

交響楽団の演奏会(山科区)

来年5月に京都市で開かれる国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)総会を前に、市民に環境への意識を高めてもらおうと、市は全11行政区で関連イベントを実施する「京都宣言発信リレー事業」を始めた。初回の27日には北区でミニ講演があり、親子連れらが地球温暖化の仕組みを学んだ。

IPCCは国連環境計画

と世界気象機関により1988年に設立され、各国の

など11件のイベントで、順次開催する。参加者にオリジナルバッグなどをプレゼントするスタンプラリーも実施する。

27日は北区の総合地球環境学研究所で、IPCCの報告書づくりに携わった安成哲三所長が講演した。このまま地球温暖化防止の対策を打たない場合、2100年に地球の平均気温が4度上昇することや、海水温の上昇などで発生する水蒸気が温室効果をもたらす最大の要因になることを説明した。参加者は熱心にメモをとっていた。

(小野俊介)